

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	世田谷区桜丘 3-10-18
園名	南桜丘保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

作ってみよう！どうなるかな？遊びの広がりと発見 ～空間の探求～

<テーマの設定理由>

月に1度、幼児クラスを中心にホールの広い空間での積み木遊びや、園庭でのダイナミックな砂場遊びを経験できる「だいすきランド」というイベントを計画している。様々な種類の玩具を使ってイメージを具現化し、園庭でマットやビールケースを使って建物や乗り物を作り楽しんでいる。現在の遊びをより深め、探求していくためこのテーマを設定。また昨年度園庭での遊具を揃えていったため、今年度は積み木遊びに力を入れることとした。

2. 活動スケジュール

- 4～6月 積み木を並べたり、重ねたりして作ってみよう
(積み木の種類を増やす)
- 7～9月 布やライトも使って「組み合わせたらどうなる？」試してみよう
(布、ライトを新たに使用)
- 10～12月 ビオプロやスカリーノを使って、「こうしたらどうなる？」と探求しながらさらに構成遊びを楽しもう
(ビオプロ、スカリーノ、サイロバジュニアを新たに使用・棚を購入し玩具を取りやすく選びやすくする)
- 1～3月 「これを使ったらいいよね」「こうしよう！」これまで遊んできたものを組み合わせながら遊ぼう

→その都度、活動の様子を写真と共に保護者へと配信。また職員で振り返りを行った。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

子どもたちが色々なものを組み合わせたり、子どもがイメージする空間を表現する方法を探求できたりするよう、積み木の種類、布、ライト、ビオプロ、サイロバジュニアなどの玩具や素材を用意した。また、子どもが色々な玩具を手に取りやすいよう棚を用意し環境を整え、設定してきた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ① 布と組み合わせたらどうなるかな？
- ② 光と色の組み合わせ～ビオプロを使ってみよう！～
- ③ 転がる？繋がる？どうなる？探求してみよう～スカリーノやサイロバジュニア～

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ① 最初は目新しい布に興味を示し、触ったり被ってみたりと素材に触れて楽しむ。一通り素材を堪能した辺りで、「ここに乘せたらどうなるかな？」と保育士が積み木や布を組み合わせる様子を見て、子どもたちもだんだんと積み木やカプラと合わせて遊び始める。

（保育士も一緒に遊びながら）「こっちに乘せてみよう？」「いいね」と子どもたち同士でアイデアを出し合いながら組み合わせる。カプラで作った筒状の塔に被せると「お家みたい～」とイメージを言葉で共有する姿にもなっていた。布をかぶせたことで“カプラの塔の中の空間”として把握しやすいような様子があった。



- ② カプラを高く積み上げた子が前回やったことをもう一度再現しようと中にライトを入れて照らし始める。そこで保育士が新しく購入したビオプロをさらに出すと、始めは色がついている事に魅力を感じ、同じ色を集めるなどして遊び始める。ビオプロを持って「穴があいてるよ？」と保育士が伝えると、「ここからライト出る？」と考え、重ねてタワーを作り始める。できあがると中からライトで照らしたり、さらに布も組み合わせたりしながらライトを点滅させたりして光や色との組み合わせを楽しんでいた。



③ スカリーノでは、まずは平らなところでレールを繋げ、玉を転がすことに楽しさを見出している様子であった。サイロバジュニアをやっていた他児が、積み重ねて高さを出し転がす姿を見て、スカリーノも高さを出すことで早く、そして長く転がることに気づいた。そこで保育者が別に組み立て、転がしてみせる。最初は繋げる難しさがあったものの、穴の転がる方向がだんだんと分かるようになり、「どっちを上にしたら転がる?」「こうすると転がらないからこうした方がいいよ」などと友だちと考えを伝え合い、だんだんと立体のものを作り上げようとする姿が見られた。



5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

- ① ・始めは素材を楽しむ姿から、こんな使い方もある、こんな使い方はどうだろう?と色々な使い方を子どもたちなりに探求していた。
 - ・保育士も一緒に楽しむことで異年齢児との関わりも広がっている
 - ・積み木やカプラを前年度揃えた事で遊びが広がったが、そこに布を足したことでさらに作るもののバリエーションが広がったり、より複雑化したり、ダイナミックになっていきそうな姿があった。
- ② ・子どもたち自身が遊んでいく中で『これがあつたらもっと楽しくなる』と気付けることをねらい、遊び始めは積み木の種類を普段より少なくした。ライトを使おうなどの声は、これまでの遊びの経験があるからこそだと感じた。
 - ・ビオプロは、まずは綺麗な色味に魅力を感じ触ったり、集めたりして楽しんだ後、保育士が遊びが広がるヒントを出すことで、自分たちで色々な使い方をしてみようとしていた。子どもたちのそういった考える力や探求心を大切にしていきたい。
- ③ ・最初は平面上でレールを作り、指ではじくことでビー玉が転がる様子を楽しんでいた。遊んでいく中で、他児や保育士の違う遊びにも興味を示し、真似ていき、子どもたちながらに探求し始めている。その結果、高いところから転がすと玉が早くなる」「沢山転がる」と気が付いたきっかけとなった。
 - ・これからどう繋げたらよりうまくつなげられるのか、また長くころがるのか、子ども同士で話し合いながら工夫したり探求したりする姿がより増えていくことが予想される。高さ以外にもより複雑な構造へもっと探求していけるようにしたい。